

技術紹介

川田工業 慰霊碑建立プロジェクト

～未来へ繋ぐ「かけはし」の制作と建立～

Kawada Memorial Monument Construction Project

三宅 律子 *1
MIYAKE Ritsuko

多田 勝仁 *2
TADA Katsuhito

1. はじめに

当社は、創業 100 周年記念事業の一環として、これまでの歴史を支えてきた先人たちの功績を称え、慰霊と感謝の意を表すための「慰霊碑建立プロジェクト」を実施しました。本プロジェクトは、当社の技術力と未来への展望を象徴する「かけはし」をモチーフとしたデザインで、厳選した素材と熟練の技術を融合させることで実現しました（写真 1）。本稿では、プロジェクトにおける設計思想、制作における主要な工夫やこだわり、そして建立に至るまでの施工上のポイントを紹介します。



写真 1 川田工業 慰霊碑

2. プロジェクトの概要

本慰霊碑は、牛久浄苑（茨城県牛久市）に建立され、2025 年 3 月に完成お披露目となりました。この地は、1993 年に建築事業部が牛久大仏建立を手掛けた経緯から、当時の 3 代目社長故・川田忠樹の発案により特別区画として購入されたものです。2022 年に慰霊碑建立の企画が検討されましたが、新型コロナウイルスや川田忠樹の急逝により一時中断しました。翌 2023 年にプロジェクトを再始動し、1 年半の制作期間を経て完成に至りました。設置された「慰霊碑建立誌」には、建立の経緯や背景、目的について記されています（図 1）。

川田工業株式会社は大正十一年（一九二二年）鍛冶職人であった川田忠太郎が富山県福野町（現 南砺市）に興した川田鐵工所が礎となり令和四年（二〇二二年）に創業百周年を迎えた
今日の盛業は創業者を始め諸先輩の尽力の賜物であり
この機にあたり物故者の遺徳を偲び
冥福を祈念するとともに社業のさらなる繁栄を祈念するためにこれを建立するものである

令和七年三月吉日
川田工業株式会社
代表取締役社長 川田忠裕

図 1 慰霊碑建立誌より

3. 設計と制作

(1) デザインコンセプト

本慰霊碑は、当社の主要事業である「橋」の中でも、象徴的な存在である「明石海峡大橋」をモチーフに、吊橋を下から見上げるようなアングルで、塔柱から橋のケーブルを想起させる 2 本の柱が優美なアーチ状に繋がる構造となっています（図 2）。このデザインは、当社の「これまでの 100 年」を育んだ先人を称え、「これからの 100 年」へと続く未来への希望と、世代を超えて受け継がれる企業文化を象徴しています。

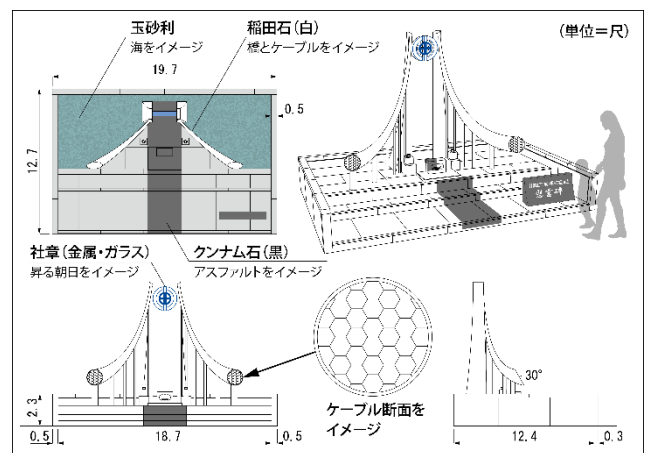


図 2 デザイン原案

*1 川田テクノロジーズ㈱技術開発本部事業開発部インキュベーション推進室 係長

*2 川田テクノロジーズ㈱総務本部 本部長

4. こだわりのディテール

(1) 白と黒のコントラスト

橋の白さを際立たせるため、主要な石材には、茨城県笠間市稲田地区で採掘される御影石の一種「稲田石（いなだいし）」を使用しました。この白い御影石は、2024年7月に国際地質科学連合（IUGS）によって「世界のヘリテージストーン」に認定された日本の銘石です。一方、参道に見立てた敷石には、インド産の「クンナム石」を使用し、白を基調とした空間におけるアクセントカラーとして、全体を引き締めています（写真2）。



写真2 石のサンプル（左）、慰霊碑正面（右）

(2) ケーブルの再現

橋の象徴ともいえるケーブルの表現では、遠近感を出すために、曲線の角度や強度の調整に試行錯誤を重ね、3Dモデルを用いた設計精度の向上、耐久・耐震に関する綿密な検証を経て、精度の高い加工を実現しました。また、ケーブル断面のデザインも重要な特徴となっています（写真3）。



写真3 ケーブルの仮組み（左）、断面のデザイン（右）

(3) 光を集めるガラスの社章

慰霊碑の中央には、主塔の間を昇る朝日をイメージして、サンドブラスト加工による社章をあしらった光学ガラスのシンボルを配置しました（写真4）。



写真4 ガラスの研磨作業（左）、社章のデザイン（右）

(4) 金属の存在感

素材の一部に金属を使いたいという思いから、ガラスの社章を支えるフレームには、ステンレスを使用しています（写真5）。

(5) 青玉砂利で海を表現

慰霊碑の足元には、青みを帯びた高知県産の「青

玉砂利」を敷き詰め「海」を表現しています。この砂利には、水に濡れると青みを増す特徴があります（写真5）。



写真5 光学ガラスをはめる前の金属フレーム（左）、青玉砂利のサンプル（右）

5. 建立

重量のある石材を扱う慰霊碑建立は、綿密な設計と厳格な安全基準に基づき施工されました³⁾。基礎工事で長期安定性を確保し、複雑な立体構造の石材加工・組立には高度な技術が不可欠でした。石材、ガラス、金属などの各素材は専門職人が連携して加工し、現場で一体のモニュメントとして完成しました。

6. プロジェクトを通して

本慰霊碑は、末永く「かけはし」としての役目を果たし、その存在感を放ち続けることでしょう。今後、ここを訪れるすべての人が、橋をつくるという営みの重みと尊さに触れ、これまでの100年を胸に、これからの100年へと想いを繋ぐ場所となることを願っています。

7. おわりに

本プロジェクトの遂行にあたり、制作において多大なるご尽力を賜りました須藤石材株式会社様、厳選された素材の調達にご協力いただいた皆様、そして卓越した職人技で製作に携わっていただいた方々、および建立にご協力いただきました牛久浄苑様には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 川田テクノロジーズ(株)：サステナビリティ活動報告,2025.
https://www.kawada.jp/csr/report/detail/20250428_427.html
- 2) 川田テクノロジーズ(株)：サステナビリティ活動報告,2025.
https://www.kawada.jp/csr/report/detail/20250625_446.html
- 3) 須藤石材(株)：WEBコラム,2025.
<https://www.sudo-sekizai.co.jp/column/monument/kawadakougyou-ireihi.html>